

飢餓対策ニュース

わたしから始める、世界が変わる

7月豪雨で被災されました皆様に
心よりお見舞い申し上げます
(3頁に緊急支援活動と緊急募金の記事)



愛には終わりがありません

日本国際飢餓対策機構 理事長 清家弘久

7月6日から7日にかけての豪雨は、特に岐阜以西の地域に大きな被害をもたらしました。この豪雨で200名を超える方の命が奪われました。今も行方不明の方の捜索が懸命に続けられています。家を失った多くの方が酷暑の中、避難所生活を続けておられます。生活を再建しよう、明日に向かって歩み出そうとしておられる方々のために、全国からのボランティアの方々の手を借りながら、私たちもできる限りのお手伝いをさせていただきます。

豪雨直後から多くの方々が問い合わせくださり、支援をお寄せくださっていることを心から感謝申し上げます。また、企業の皆様にも多くのご協力を頂いていますことも紙面を通してお礼を申し上げます。

今回の災害で、いち早く動き出したのは広島でした。それは2014年に広島市で起こった土砂災害を経験したことが大きなきっかけとなっています。すぐにネットワークを使って呉や他の地域への情報を集めベースとなる場所を確保するなど素早い動きでした。岡山がそれに続き、災害ネットワークを立ち上げてくださいました。熊本地震、九州北部災害を経験しているチームの動きも機敏でした。すぐに愛媛の調査に入り、四国の災害ネットワークが生ま

れました。災害を通してお互いが協力しあって助け合うという機運がさらに強まっているように感じます。悲しみを力に変えていくという意思を感じます。海外からも横浜の本郷台教会を通してボランティアチームを送りだしてくださっています。それぞれの災害ネットにJIFHが協力して連携を強固にしながら、被災地支援をさせていただいています。

宮城の石巻からボランティア(写真④)が駆けつけてくださいました。3.11の時に広島からのボランティア活動で助けられた、今度は自分たちが頂いた支援の恩返しをしたいという思いを行動で表してくださっています。

聖書に「誰に対しても、何の借りもあってはいけません。ただし、互いに愛し合うことは別です」(ローマ13:8)という言葉があります。誰に対しても借りたものは返すという趣旨です。しかし、愛の行動には終わりが無いことを指しています。受けたものを恩返しするだけではなく、それを何倍にも何十倍にもしたとしてもそれで終わりではないことを表しています。困っているときはお互い様、愛を実践することを互いが表していきましょう。それが世界を変えていく大きな歩みとなっていくと信じています。



「ルシオが農作業中に木から落下して左腕二箇所を骨折した!」「えっ、あのルシオ君が?」FH米国スタッフが私に連絡してきたのは去る5月29日。「あのルシオ君」というにはわけがありました。それは昨年10月にこのスタッフから緊急の相談を受けていたからです。

「トロトロ郡のリステ村にとっても貧しい一家がいる。彼の父親はアルコール依存症で3年前に死亡、母親は歩行困難。13歳のルシオ一人で小さなトウモロコシ畑とヤギの飼育、村の人たちの農作業の手伝いで細々と生活していて現金収入は殆ど無い状態。現在の簡素な家は倒壊寸前で、彼らは外に布を引いて眠り(その後倒壊)、雨季には知人宅や学校の軒下などを転々として夜を過ごしている。11月からは雨季。せめて1部屋だけでも雨つゆをしのげる場所を作ってやれないだろうか」とのことでした。

私は出席している町の教会で呼びかけ、協力者を募ったところ、隣人への思いやりの心を何人もの人が具体

変わるものと 変わらないもの



ボリビア多民族国
駐在 小西小百合

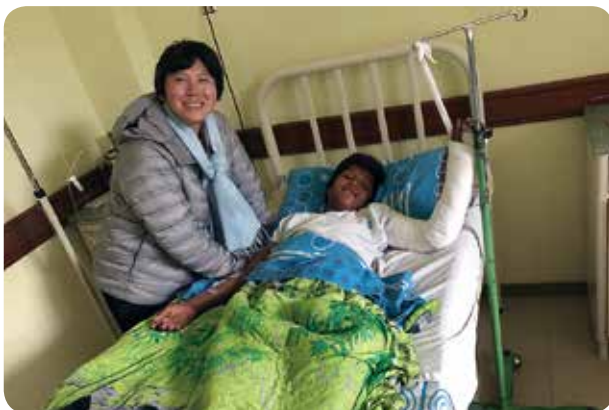
的に示して下さいました。その結果、彼一家のために泥レンガとトタン屋根の家(6m×4m)を建設でき、私たちは皆とても喜んでた矢先だったので。その喜びもつかの間のルシオ君の事故の一報!彼は地域の診療所で副木を添えただけで4日間激痛に耐えていました。「お金が無いので大きな病院に行けない。行っても町での滞在費や治療費をととても払えない」と本人も村の人たちもあきらめていたからです。

手術成功後にも困難が

私は神様に祈り上司に「必要は神様が必ず満たして下さいから、とにかく公共バスで誰かに連れて来てもらうように指示して下さい!」と進言しました。同じ村出身でコチャバンバ在住のひとと連絡がとれ、その人のサインがあったので10時間かけて町に移動して緊急入院でき、事故後7日目に手術は成功。しかし新たな困難が待ち受けていました。

実は彼には出生証明書や身分証明書などの正式な書類がないことが判明し、未成年は親の許可書が必要だが母親も何一つ身分証明書類がないため、親子だと証明することができず、退院許可が下りないということが分ったのです。これでは退院できないどころか、法律に基づく引き取り手がいないければ彼は政府の施設に送られることになります。まさに八方ふさがり!「神様、どうすればいいのでしょうか。どうか知恵を与えて下さい。助け手を与えて下さい!」と祈り、解決策を模索しました。

〈次号へ続く〉



手術成功後にルシオ君と

豪雨被災者緊急支援

7月上旬の集中豪雨で被災された人々への緊急支援として、当機構は岡山県倉敷市と広島県呉市にスタッフを派遣。地元で生まれた2つのボランティアセンター（民間）の運営協力を通じて、被災者支援を続けています。また、パン・アキモト（栃木県）から「パンの缶詰」、アイリン株式会社（名古屋）から「下着」の提供を受けて、倉敷市の避難所などからの支援要請にも応えました。それぞれの被災地では連日35度を超える猛暑の中、被災者ニーズに配慮したボランティア活動が続けられています。ぜひ募金とボランティア参加で応援をお願いいたします。



真備町での泥かき作業



パンの缶詰を被災地へ



呉ボランティアセンター



岡キ災の事務局



倉敷に届いた下着

呉市と倉敷市で生まれた支援ネットワークを通じて活動中

呉ボランティアセンター

呉市では、キリスト教会・広島災害対策室によりボランティアセンターが7月17日開設。この活動に救世軍の2つの福祉団体（明日葉、愛光園）、当機構（黒坂スタッフ）、サマリタズパスなどが協力して活動を行っています。またセンター事務局としてインマヌエル呉キリスト教会が建物を事務局に提供するとともに、ボランティアの宿泊場所として近隣の4つのキリスト教会が協力しています。

300世帯のニーズ調査

主な活動地である呉市天応地区では①300世帯のニーズ調査②住宅などの泥かき③瓦礫の撤去と運搬（トラックやユンボも活用）な



ニーズ調査（呉市天応町）



どが行われています。また活動は地元社会福祉協議会とも情報共有やボランティア

動員などで連携しています。

活動最初の1週間は、宮城県や神奈川などからキリスト教会や海外の方々も多数参加して、住宅の片付け、床下や庭、道の泥かきなどが行われました。当初は、キリスト教系のボランティアに戸惑いの声もありましたが、被災者の気持ちに配慮した活動姿勢が喜ばれ、センターへの支援要請が着実に広がっています。

岡山キリスト災害支援室

倉敷市真備町では、被災直後に自宅に戻れない住民が多かったことから、行政側が現地でのボランティア活動に慎重さを求めています。しかし被災者からの支援要請が増え、社会福祉協議会だけでなく民間のグループにもその役割が求められました。

岡山キリスト災害支援室（＝岡キ災）は、地元のキリスト教会の協力によって生み出され、倉敷市広江に40名まで宿泊可能なボランティアセンターを開設、7月16日から活動を始めました。このセンター運営のために、当機構からは

緊急支援チームリーダーの伊東と向頭スタッフを派遣し、これまでの災害支援活動の経験やノウハウの提供で協力を続けています。

活動は大きな被害が出ている同市真備町周辺を中心に住宅や福祉施設などで片付け、泥かきなどが続けられています。

本当に助かりました！



【真備町の被災者家族】

「怪我で入院している祖父に代わって大阪から家族3人で片づけにきました、7月18日には帰らなければならないのに全く片づけが進まない。ボランティアセンターに依頼しても数日先に入れるかどうかといわれていた。そんな中で来ていただき片付けができて本当に助かりました」（女性）「皆さんがまるで神様のようにはみえました」（男性）

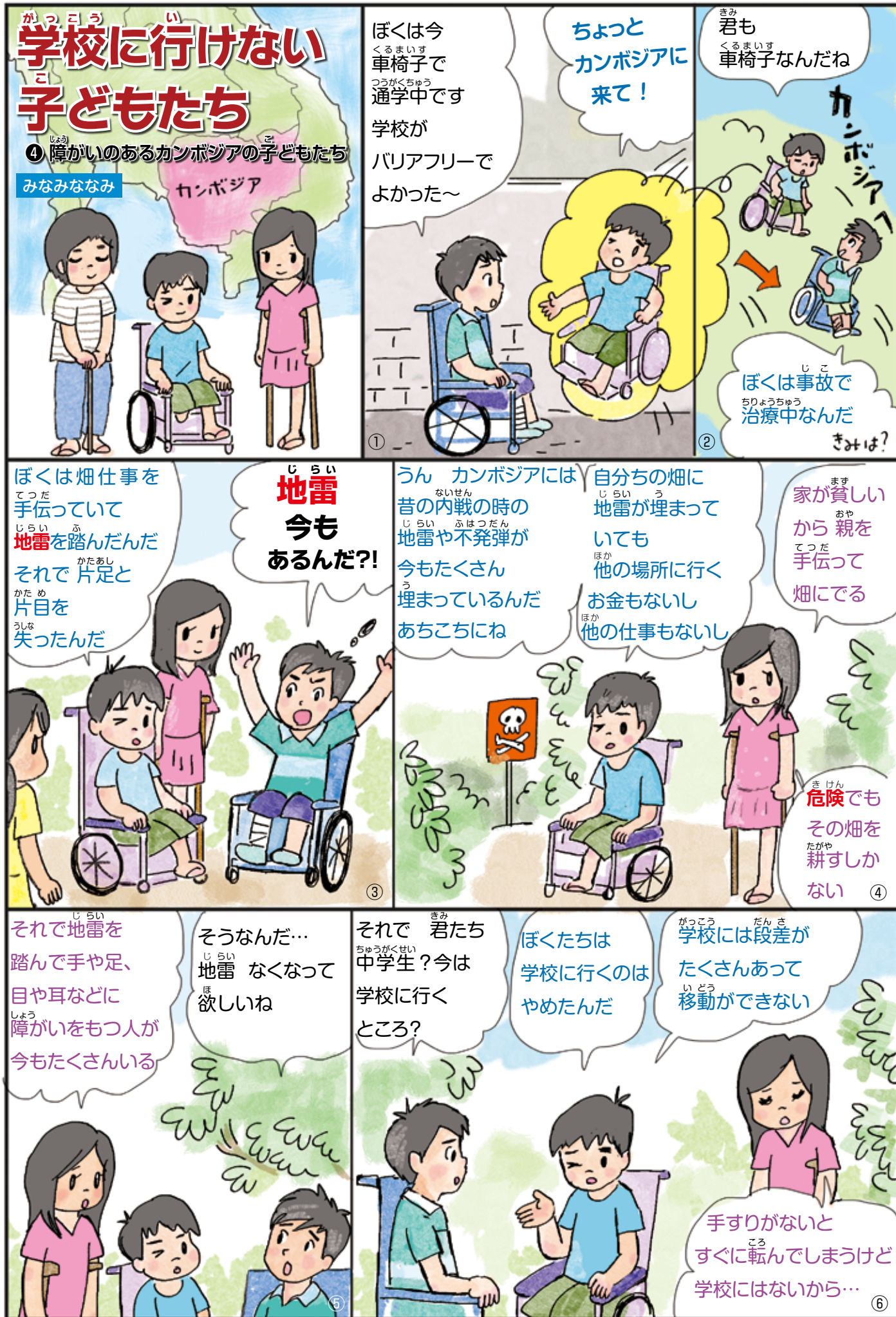
豪雨被災者緊急募金にご協力ください

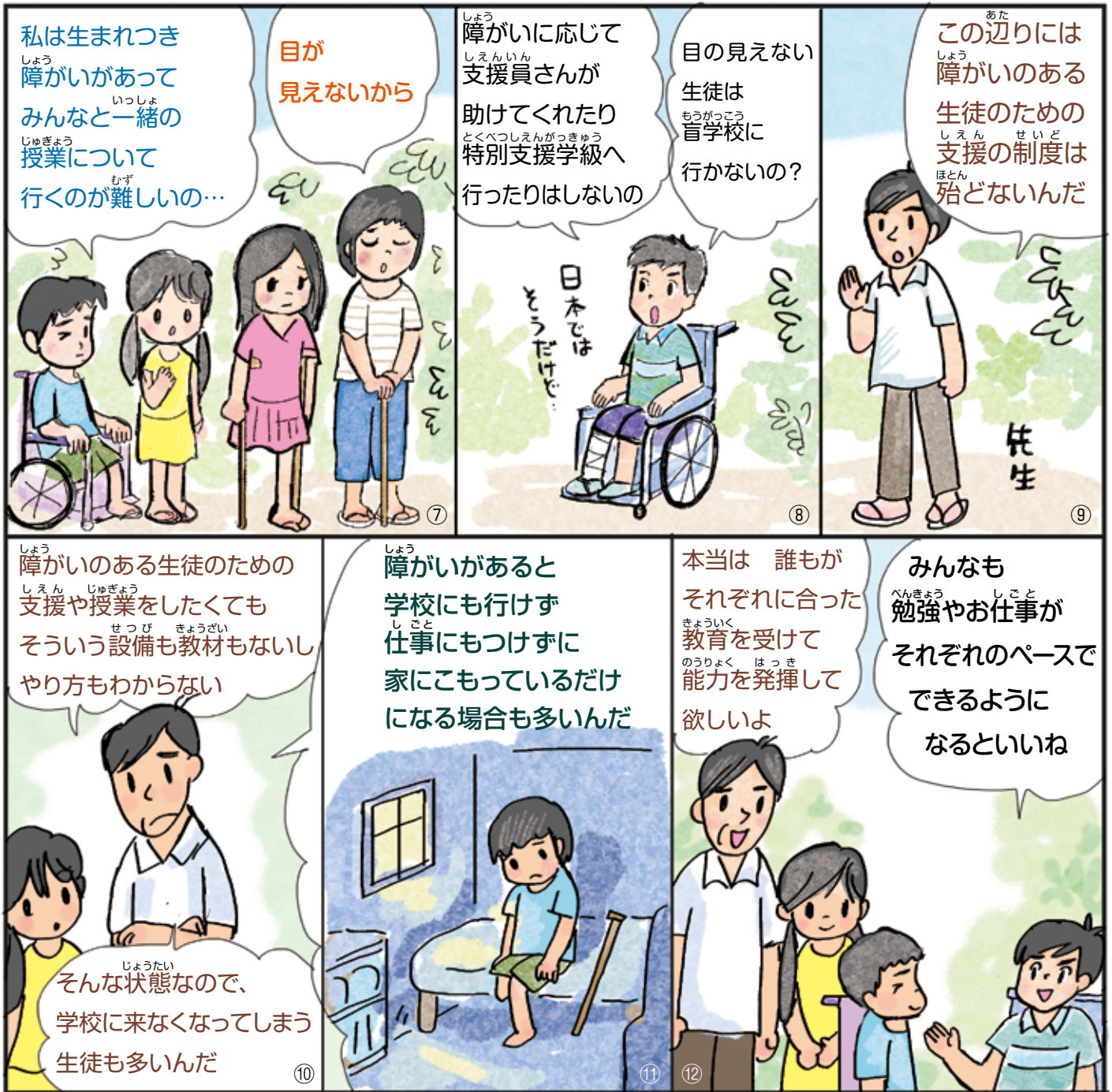
郵便振替 00170-9-68590 日本国際飢餓対策機構
記入欄に「2018年7月豪雨」と明記のこと。



スマホでQRコード
使って募金に
参加しよう

最終面に募金の申し込み欄もございます。





FHカンボジア
が取り組んでいる
障がい者支援



カンボジアでは、50人に1人は何らかの障がいがあり、そのうちの10人に1人は14歳までの子どもたちです。

生まれつき障がいのある子どもたちもいれば、内戦の際に埋められた地雷や不発弾の爆発の被害などによって、障がいを負う子どもたちもいます。

このマンガのように障がいのある子どもたちは、障がいのない子どもたちに比べて学校に通うのを途中で止めてしまう確率が2倍であることが明らかになっています。

FHは障がいがあっても仕事ができ、家族を養う収入を得ることができることを知ってもらうために、6つの村の障がい者グループに対して、お店を運営するよう促しました。9人の女性を含む42人のメンバーで働き、現在計\$1300 (14.5万円) 以上の貯蓄ができています。



JIFHから「Hunger Zero」へ

1981年、私たちは日本国際飢餓対策機構（Japan International Food for the Hungry 通称 JIFH）の名で創設され、非営利の民間海外協力団体（NGO）として世界の貧困・飢餓問題の解決のために活動してきました。現在は国際飢餓対策機構連合（Food for the Hungry International Federation）の一員として、世界18ヶ国55の協力団体とともにアジア、アフリカ、中米の開発途上国で現地パートナーと協力し合って「ここから始まる飢餓」に応える働きをしています。国際飢餓対策機構のスローガンは「人は一人ひとり死んでいく、私たちも一人ひとりを助けていこう（They die one at a time, so we can help them one at a time.）」です。JIFHはこの理念を継承・展開させ「わたしから始める、世界が変わる」をオリジナル・スローガンにして今日まで活動を続けてきました。

そして今、目まぐるしく変わる社会状況の中で、さらにこのメッセージをより分かりやすく発信し続けてゆくために、2018年3月の理事会にてCI委員会発足の承認を頂き、新しいロゴの作成およびCIの検討を続けてきましたが、同6月の理事会にてこれらをまとめた「ハンガーゼロ・コンセプトノート」の承認を頂き、日本国内では団体名を〈Hunger Zero=ハンガーゼロ〉と変えて新たにスタートします。

（文・CI委員長 総主事 近藤高史）



飢餓ゼロへの挑戦

〈Hunger Zero〉という言葉は大変重いものです。当団体の活動の性質上、世界の苛酷な現実を人々に伝えなければならないこともあり、時には暗い印象を与えることも避けられません。そこで新しいロゴからは、むしろすっきりとした整った力強さや安心感、未来への希望がストレートに伝わるように、現代的でスタイリッシュな書体と爽やかなオーシャンブルーの色で構成しました。大文字〈Z〉のイニシャルは向こうに開かれようとしているドアの形をかぶせて白く抜き、ここを強調することでHungerとZeroとの間にある緊張関係を表わしつつ、「飢餓ゼロへの挑戦」という扉を開けることへの静かな決意を込めました。ぜひとも新しいロゴ採用について、ご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

（注：「ハンガーゼロ・コンセプトノート」より一部抜粋・編集）



④は新しくなる「麦と魚のロゴマーク」と「法人名のオリジナルロゴタイプ」
Hunger Zeroは国内での団体通称名とし、（一財）日本国際飢餓対策機構は法人名として変わりません。
また、海外ではこれまで通り Japan International food for the Hungry=JIFHを使用します。





音楽活動でハンガーゼロを応援します! ~沖縄から~

「私に何ができる…」の自問自答から

東江千鶴 (歌手)

2013年、世界食料デー沖縄大会のLIVE出演をきっかけに「ハンガーゼロ・サポーター」として日本国際飢餓対策機構 (JIFH) の働きに関わらせていただき、今回「ハンガーゼロ・アンバサダー」の任命を受け、思いを新たに歩み始めました。

任命後の7月1日に行われた「JB Cafe Live」にて、JIFHの働きについて会場のお客様に紹介する機会をいただきました。「キリストの精神のもと、世界にある、こころとからだの飢餓を撲滅すること」という理念のもとに支援を行なっているという説明を、皆様真剣に耳を傾けて聞いてくださっていました。感謝のひと時でした。後日、JIFHの働きに関心を持たれた方がご自身のSNSを通し、その活動内容を取り上げてくださっている様子を目にしました。



「私に何ができるのだろうか」と自分自身に問い続けていましたが、これを伝えていくことが私の役割なのだと実感しました。この使命をくださった神様に感謝し、音楽活動を通し世界の飢餓・貧困問題について1人でも多くの人に伝えて、架け橋となれるよう歩んでいきたいです。どうぞよろしくお願いいたします。

「留学時代の24時間断食」の祈りから

前田進一郎 (声楽家)

この度ハンガーゼロ・アンバサダーという大切な役割に就任させて頂く事になりました声楽家の前田進一郎と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

イタリアで貧乏留学をしていた頃“レッスンを受けたい”“本場の劇場でオペラを観てその空気感、声の響きを感じたい”“日本では見たこともないCDを買いたい”でもお金がない…。考え抜いた結果24時間断食を決意。それで留学中何度も24時間断食をしました。

「求めよ。そうすれば与えられる」の聖書の言葉にしがみつき、少しでもいいので何か食べるものを与えてください、と毎回断食のたびに祈りました。しかし世の中には「お腹が空いた」と声を出すエネルギーさえ失い、亡くなってしまう方がなんと多い事でしょうか。

その時「いつか飢餓で苦しむ人のためにチャリティコンサートをしたい」という思いが与えられました。

神様の素晴らしい恵みの一つである音楽を通して、平和と希望を届ける事が出来るよう、微力ではございますが祈りつつ、心を込めて活動してまいります。

God bless you.



現在の
人数…

ハンガーゼロ・アンバサダー 7名
ハンガーゼロ・パートナー 8名
※お問い合わせは東京事務所まで



日本国際飢餓対策機構(Japan International Food for the Hungry: 略して JIFH)は、イエス・キリストの精神に基づいて活動する非営利の民間海外協力団体(NGO)です。1981年に誕生して以来、世界の貧困・飢餓問題の解決のために、自立開発協力、教育支援、緊急援助、人財育成、海外スタッフ派遣、飢餓啓発などに活動を広げてきました。現在は、国際飢餓対策機構連合(Food for the Hungry International Federation)の一員として、18カ国55のパートナー団体と協力し、アジア、アフリカ、中南米の開発途上国で、「こころとからだの飢餓」に応える活動をしています。



★Tポイントを利用して「南スーダン・マブイ小学校給食支援」ができます。現在までに576235ポイント(円)のご協力(6183件)がありました。募金はTポイント募金で検索

備えてますか? 備蓄食



非常用備蓄食 「救世鳥 Jr」新発売

米国のスペースシャトルにも積載された備蓄食です。やわらかくて美味しいパンが入った缶詰です。防災用途以外に海外での食料支援にも活用できます。社会貢献活動、救世鳥プロジェクトについては「キングダムビジネス」で検索。

内容: 救世鳥 Jr オレンジ味100g/缶24缶セット
価格: 9,980円+税
賞味期限: 製造日より37ヶ月
※配送・回収費・海外輸送費は無料です。
お申込み・お問い合わせ: (株)キングダムビジネス
お支払い: 指定口座へ入金
指定口座: 郵便振替口座 00950-0-216776
(株)キングダムビジネス
お届けは入金確認後、おおよそ2週間程度。
キングダムビジネス
〒540-0026 大阪市中央区本町1-4-12 NPOビル402
TEL:06-6755-4877 FAX:06-6755-4888

本紙も変わります!

飢餓対策ニュースから

「Hunger Zero news」へ

1981年の創設時から支援者様にご愛読いただきました「飢餓対策ニュース」は、今年度からの団体通称名の変更に合わせて、次号より「Hunger Zero news」に変わります。紙面もリニューアルして、支援者様に活動をしっかりと伝えようとするとともに、ハンガーゼロ運動の参加の輪を広げるためのツールとしても活用していきたいと願っています。

また秋頃には「ハンガーゼロ」新ウェブサイトを公開します。ご期待ください!

2018年世界食料デー

「わたしから始める、世界が変わる」
大会テーマに全国29会場で開催
～「札幌」「横浜」「浜松」を追加～

10月16日は世界の食料問題を考える行動する日として、国連が制定した「世界食料デー」です。今年も10・11月に各地の実行委員会による大会や各種の催しが行われます。今年は、札幌大会など新しい3つの大会が加わりました。

今回も「1食分募金」にご協力ください。なお大会については、次号の「世界食料デー特集」で詳しくお知らせいたします。



ハンガーゼロ サポーターを 大募集中!!

現在までに
4469口

今すぐ 各種支援の お申し込み ができます!!

●まず右の必要事項に記入して、点線の枠部分を切り取りハガキに貼って、下記の大阪事務所宛に郵送、又はこの頁をコピーして、ファクシミリで申し込みください。確認のための必要書類等を送らせていただきます。
お電話でも申し込みできます。各事務所までおかけ下さい。

- ☐ **2018年7月豪雨緊急募金**
一時募金として () 円
- ☐ ハンガーゼロサポーターとして協力します。
毎月 () 口 (1口1,000円)
- ☐ チャイルドサポーター(子ども1人4,000円)になりたいので説明書(申込書)を送ってください。
- ☐ 海外スタッフサポーターとして協力します。
毎月 () 口 (1口1,000円)
- ☐ JIFHサポーターとして協力します。
毎月 () 口 (1口500円)
- ☐ 郵便自動引落し申込書を送って下さい。
- ☐ その他の銀行自動引落し申込書を送って下さい。

フリガナ 氏名: _____ 男・女

〒 _____
フリガナ 住所: _____

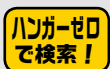
.....
(電話)

▼申込日: _____ 年 月 日 ▼NL 337号

FAX・072-920-2155

■発行者 清家弘久

■発行所 一般財団法人 日本国際飢餓対策機構



Webサイトアドレス <http://www.jifh.org/>
eメールアドレス general@jifh.org
フェイスブック <https://www.facebook.com/hungerzero>

■募金方法 ※各種方法で随時受付中、詳しくは電話やウェブサイト

- 郵便振替 00170-9-68590 / 日本国際飢餓対策機構
- 他の金融機関からの自動振替 ●クレジット、デジタルコンビニ



大 阪 〒581-0032 八尾市弓削町 3-74-1
(広島) TEL (072)920-2225 FAX (072)920-2155
東 京 〒101-0062 千代田区神田駿河台2-1 OOCビル517号室
(東北) TEL (03)3518-0781 FAX (03)3518-0782
愛 知 〒460-0012 名古屋市中区千代田 2-19-16 千代田ビル3F
TEL (052)265-7101 FAX (052)265-7132
沖 縄 〒900-0033 那覇市久米2-25-8 メゾン久米 202号
TEL (098)943-9215 FAX (098)943-9216
U S A Ainote International c/o Mr. Takehiko Fujikawa
8010 Phaeton Dr. Oakland, CA94605
TEL (510)568-4939 FAX (510)293-0940



JIFH



チャイルドサポーター

「かざして募金」はスマートフォンからご利用できます。募金は、ソフトバンクモバイル(株)経由となります。詳しくはウェブサイトをご覧ください。

毎月、飢餓対策ニュースを皆様にお届けするために、ひばり障害者作業所(八尾市)、生活愛、関西地区のボランティアの皆様が発送作業の協力をして下さっています。